



どうしよくぶつえん

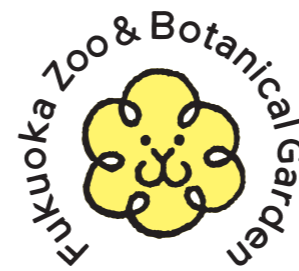
動植物園だより

新施設で繁殖に成功！ヒナ3羽グングン成長中
福岡市動物園は今年で開園70周年！

vol. **131**
Autumn & Winter
2023



オープンから半年。ボタニカルライフスクエア、大盛況！
植物が大好きな、ひとたち。



どうしよくぶつえん

動植物園だより

vol. **131**
Autumn & Winter
2023



第131号(令和5年10月発行) 発行/公財)福岡市緑のまちづくり協会 〒810-0033 福岡市中央区小丘5丁目1番1号(福岡市動物園 緑の情報館内) TEL.092-260-8816
編集/福岡市動植物園 〒810-0037 福岡市中央区南公園1番1号 TEL.092-531-1968(総合案内所) 制作/福岡印刷株式会社 〒812-0892 福岡県福岡市東区東那珂1丁目10番15号 TEL.092-451-0027(営業部)



福岡市動植物園
Fukuoka Zoo & Botanical Garden

開園時間 9:00~17:00(入園は16:30まで)

休園日 毎週月曜日
(祝日の場合はその翌日、年末年始(12/29~1/1))

入園料 大人600円(480円)、高校生300円(240円)、中学生以下無料()内は30人以上の団体料金
※障がいのある方、福岡市・北九州市・熊本市及び鹿児島市居住の65歳以上の方、「動物サポーター」、
「植物園友の会会員」は無料。(学生証、障害者手帳、シルバー手帳等をご提示ください。)

TEL 092-531-1968 (総合案内所)
〒810-0037 福岡市中央区南公園1番1号

動物園ホームページ
<https://zoo.city.fukuoka.lg.jp>



動物飼育数 (2023年8月末現在)	
哺乳類	37種204点
鳥類	49種210点
は虫類	13種51点
合計	99種465点
植物展示数 (2023年8月末現在)	
温室	1,240種
野外	1,400種
合計	2,640種

動物取扱業者標識	
氏名	福岡市長 高島宗一郎
所在地	福岡市中央区 南公園1番1号
登録番号	動管第E0402054号
有効期限	2027年7月3日
名称	福岡市動物園
種別	展示
登録年月日	2007年7月4日
動物取扱責任者	山崎 理恵子

新施設で
繁殖に成功！

ヒナ3羽 グングン成長中



1. フンボルトペンギンの観察記録をつける福原さん 2. フワフワの毛に包まれ孵化したばかりのヒナ 3. 生後約1ヵ月頃に体重測定。バケツの中で上手に待つヒナは2.4kgに 4. 小野さんからエサをもらう親ペンギン。ヒナは親が胃に貯めたものを口移しでもらう 5. 7月半ば頃からは親から離れて遊べるほど成長

2023年4月、フンボルトペンギンのヒナ3羽が誕生！繁殖活動に初めて取り組んだという福原さんと、春から担当になったばかりの小野さんに誕生ストーリーを聞きました。

繁殖の方針は？

JAZA（日本動物園水族館協会）が、全国に約1800羽いるフンボルトペンギンを血統管理しています。血縁が近い間で交配させると、後の世代に異常が現れやすくなるため、安全な血統同士がペアになれるよう、JAZAの血統管理に基づいて飼育担当職員が調整をしています。これは、ペンギンたちを、健康で長く飼いつけるために行っていることなんです。

福原さんは、今回はどうペアリングしたのですか？

フンボルトペンギンは一度ペアになればずっと添い遂げる習性を持っています。今回はすでにカップルになっていた2ペアと仲良くなってほしいオスとメスの2羽、計6羽をグループにして様子を見ました。それが、2022年の2月頃です。幸い相性が良く、絆がしっかりできた頃に全体の群れに戻し、順調に交尾、産卵と進み、今回は托卵も採用しました。

托卵とは？

托卵は、卵を産んだ親とは別の仮親に卵を抱かせ孵化させる方法です。仮親は孵化した後、実子のように育てます。今回は、初めての繁殖ペアと久しぶりの育すうペアであり、確実にヒナが育つよう、2つ産んだ卵の1つを別のペアに托卵しました。

印象的だったことは？

親は卵を温める間、とても神経質になり、ちよつとでも近寄ると必死で卵を守るうと飼育担当職員に噛み付いてきます。そんな中、托卵のために卵を取り上げなければならなかった時は、心の中で「ごめん！」と謝りながら胸が苦しかったです。それだけに、無事に健康なヒナが生まれ成長している姿を見る度に嬉しくなります。

新しく担当になられた小野さんはいかがでした？

僕はヒナが生まれてすぐの4月に担当になり、率直に、可愛いばかりです。ただ、半年で大人並みの大きさになり、成長の早さに驚いています。現在、新たなペアリングにも挑戦中。こちらも楽しみにしていってください！



フンボルトペンギン (ペンギン目ペンギン科)

国内の動物園や水族館で多く飼育されていますが、野生では絶滅危惧種。孵化して1年目のヒナは全体がグレーで胸元の蹄鉄型の黒い帯がないのが見分けポイント。生後2ヵ月頃から、親にくっついてプールデビューし、水遊びが大好きに！(7月31日撮影)

孵化から約2週間の様子



飼育係トビックス
白濱祥平さん 山本周平さん

オランウータンも歯が大事!

長きに慣れ親しんでいた、オランウータンのミミが亡くなったのは2022年12月。最後は歯も悪くなり固形物が食べられなくなってさらに弱り、歯周病が進行していたこともわかりました。そんな姿を目の当たりにした白濱さんが、今いるリキたちにできることを考えたのが口腔ケア。現在、新しい担当の山本さんも一緒にトレーニングに励んでいます。



週2~3回は歯みがきタイム♪

最初は、担当職員が親指と人差し指を大きく広げて見せるハンドサインで大きく口を開けさせる練習。上手にできたらご褒美に好物のたまごボーロや干しぶどうを。続けるうちに、ハンドサインだけで口を開けてくれるようになりました。



といってもわずかな時間の中で、手早くブラッシングするのは至難の技。食事でも糖分の多い果物を減らして野菜中心にするなど、虫歯になりにくいようヘルシーに。少しでも健康で長生きできることを願って頑張っています!

ピカピカの歯で健康に



2024年7月までの毎週日曜・祝日



70周年記念ノベルティ

これまでに人気の高かったポスタービジュアルの記念ステッカー(名刺サイズ)を作成。2024年7月までの毎週日曜・祝日にご来園の先着100名さまにプレゼント♪配布場所は動物園正門総合案内所です。
※月ごとにステッカーの絵柄は異なります。



2024年8月まで



「福岡市動物園開園70周年記念サポーター」の創設

8月22日から1年間の期間限定で、支援いただく方を募集中です。金額は3,000円以上で、特典として新たに記念ステッカー12種類セットとオリジナルサポーター証付き。



継続設置中

ツシヤマネコのモニターを設置(株式会社 近代プラント様より寄贈)

福岡市動物園では、ツシヤマネコの繁殖に長年取り組んできましたが、生物多様性保全の観点から、多くの方の関心を集めています。今回70周年に合わせて、繁殖施設内で展示されていないツシヤマネコの様子をライブで見られるモニターを情報館に設置しました。ぜひ観察しにきてください!



福岡市動物園は今年で開園70周年!

福岡市動物園は1953年に開園以来、皆さまに支えられ、2023年8月で70周年を迎えました。今夏から、70周年を記念した特別企画や限定グッズの販売など行い、スペシャル感いっぱいの動物園。70年の歩みの中には、日本初のチンパンジーの赤ちゃんの誕生や、2カ月で87万人の入園者を記録したパンダの来園など、数々の話題が満載。1980年には、隣接して植物園が開園し、さらに親しまれる場所になりました。ぜひこの機会に、動植物園の歴史に想いを馳せてみませんか。



1962年、初めて繁殖に成功したチンパンジーの赤ちゃん「初男」



1980年4~5月の2カ月間限定で中国からパンダ2頭が来園!

ステッカーもぜひ!



動物園長 佐藤 広明さん

多くの皆さまに愛される園に!

市民の皆さまはもちろん、福岡以外のエリアからも来ていただけるような園にしていきたいです。そして、動物たちの生息地が今どんな状況なのか、地球規模で自然環境が破壊されていることを学ぶ教育の場にもなれば幸いです。



動物たちと70周年をお祝い

8月22日の70周年当日に、カバの「タロー」、マレーグマの「サニー」へ、70周年のアレンジ・デコレーションしたエサをプレゼント!



70周年記念パネル展

動物園エントランス施設内の動物情報館ZooLabにて、70年の歩みを振り返るパネル展を実施しました。動物たち・動物園へのメッセージもたくさん寄せられました。



北村直登さんライブペインティング

9月2日、「夜の動植物園」ポスターのイラストを描いてくださった北村直登さんによる70周年記念イベントを開催♪昨年のクラウドファンディング・プロジェクトで集まった寄付金をこの日、お持ちいただきました。

\\ SNSでも最新情報を発信中! /



園路の木々を剪定して大盛りのキリンの主食が調達できました

5月15日と6月5日の休園日、九州電力送配電株式会社福岡配電事業所・株式会社九電送配サービス福岡サービスセンターの方が、園路斜面の木々を剪定してくださいました。剪定した枝（主にスダジイ）はありがたいことに、アミメキリンの主食。新鮮な枝葉を美味しくいただきました。



福岡市動物園×ANAクラウンプラザホテル福岡 かわいい♡動物スイーツビュッフェ 「SWEEZOO」開催!

6月3日~8月27日、ANAクラウンプラザホテル福岡にて、当園の動物たちをモチーフにしたスイーツが楽しめるデザートビュッフェが開催されました♪ 売上の一部は、ANAクラウンプラザホテル福岡様より動物たちのエサ代としてご寄付いただきました。

「クイズdeビンゴ」 GW限定配布

クイズの答えを動物園をまわりながら楽しく探しました。ビンゴの数に合わせてプレゼントも!

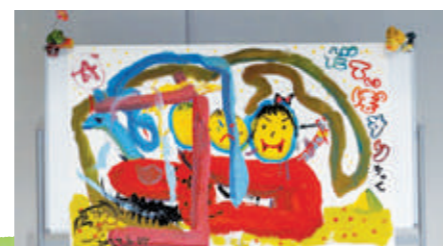


動物情報館 Zoo Lab



「あの“給食番長”がやってくる! 世界に1びきの ヘンテコ動物をうみだそう!」

飼育(4/19)の日にちなんで、かつての福岡市動物園をモデルにした絵本「飼育係長」の作家、よしながこうたくさんが来園。博多弁MAXの読み聞かせやライブペインティングで盛り上がりました♪



モモイロインコの子ども(メス) 名前が「ロゼッタ」に!

父・マリオ、母・モモの流れをくんで、スーパーマリオシリーズのキャラクターから名付けました。名付け親は、抱卵されていなかった卵に気づいて人工哺育で育てた飼育担当職員です。3月25日、無事1歳になりました。



祝35歳!「ジュリ」がご長寿記録更新

5月31日はジュリの35歳の誕生日。国内で飼育されているマレーバクの中で最高齢となって10年。国内長寿記録も更新中です。にんじん、りんご、さつまいも、おからなどが入った、飼育担当職員手作りのケーキでお祝しました♡



アムールトラ「ヒューイ」へ プレゼントをいただきました

ヒューイ来園を記念して、三井住友トラスト不動産様より、同社のキャラクター「トラストさん」柄のかわいいダストボックスをはじめ、ヒューイのおもちゃや人工ケーシング(餌を吊るして可食できるヒモ)をご寄付いただきました。



追悼



シロテテナガザル 「タム」 (オス)

1973年4月11日生まれ
2023年8月21日死亡

動植物園インフォメーション



会員募集 動物サポーター

動物サポーターとは、皆様に動物たちのエサ代などを支援していただくことにより、動物園で飼育されている動物に、より親しみを持っていただくための制度です。会員期間は入会日から1年後の月末までです。

寄付金	個人様 一口1,500円以上 企業・団体様 一口50,000円以上
動物サポーター特典	<ul style="list-style-type: none"> 登録証(年間パスポート)の発行 動植物園だよりの配布(2,000円以上) サポーター限定のイベントに応募できます(2,000円以上) 開園70周年記念ステッカー12種類とオリジナルサポーター証(3,000円以上)
お問い合わせ	092(531)1968 (総合案内所)

動物サポーター報告

令和4年度登録者: 7,187件(個人+企業) 寄付金総額: 18,269千円
たくさんの方に登録いただき、心より感謝いたします。寄付金は動物のエサ購入費に充てさせていただきました。今後とも皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

企業サポーター(10万円以上/令和5年1月現在)
(株)近代プラント (株)エルテックスヨシダ (株)マインド (株)八ちゃん 弁護士法人 森田法律事務所 (株)プロテックシステム (株)三好不動産 キリンビバレッジ(株) パンダタクシー 三井住友トラスト不動産(株) AQUA one zoo (株)キッズプロモーション 種口産業(株) 福岡建材(株) ひのグループ (株)パルナ不動産 九州電力送配電(株)福岡配電事業所 (株)CubReX (株)ブレイク研究所 FARM DOI 21 (有)富永建設 東興資産管理(株) (医)結紀会やまもとホームクリニック グッドワーク株式会社



会員募集 植物園一人一花友の会

植物園一人一花友の会は、一人一花運動の拠点である植物園をご支援いただき、宿根草花壇を維持管理しながら人材育成していくプログラム等、様々な花による共創のまちづくりを応援していただくための制度です。

寄付金	個人様 一口2,000円以上 企業・団体様 一口50,000円以上
入会特典	<ul style="list-style-type: none"> 会員期間中は動植物園の入園料が無料(年間パスポート証発行) 抽選対象の園芸講座等の当選確率アップ 動植物園だよりの配布 植物園内売店、レストランでの割引等(動物園は除く) 会員限定の催しへの参加や花苗などのプレゼント(抽選有) 一人一花サポート制度の利用申し込みができます
お問い合わせ	092(522)3210 (福岡市植物園)

植物園一人一花友の会会員報告

令和4年度会員数: 500件(個人+企業) 寄付金総額: 7,059千円
皆様の温かいご支援に心よりお礼申し上げます。寄付金は人材育成プログラムを行う宿根草花壇等の花壇管理の費用に充てさせていただきました。今後とも皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

企業・法人会員(10万円以上/令和5年1月現在)
(株)近代プラント (公財)福岡市緑のまちづくり協会 (株)キッズプロモーション アンドグリーン(株) マタケ造景(株) (株)ジャパンネットワークス キャンジョ/キャンジョ女子園 国際ソロプチミスト福岡 MUSEE BOTANIQUE

交通アクセス

土・日・祝日は大変混雑しますので公共交通機関をご利用ください。

もよりのバス停
動物園 正門「動物園前」(56・58番)
西門「上智福岡中高前」(56・57・58番)
植物園 「小笹団地正門前」(56・57・58番)

博多駅方面から	バス停「博多駅前B」から58番バスで約20分(土・日・祝約20分おき)
天神方面から	バス停「天神協和ビル前(10)」から56・57番バスで約20分(土・日・祝約10分おき)※57番は「動物園前」を経由しません。
地下鉄ご利用の場合	地下鉄七隈線「薬院大通駅(動植物園口)」下車2番出口徒歩で15分またはバス停「薬院大通り」から56・57・58番バスで約6分(土・日・祝約10分おき)※57番は「動物園前」を経由しません。
西鉄電車ご利用の場合	西鉄天神大牟田線「薬院駅」下車南口バス停「薬院駅前」から58番バスで約10分(土・日・祝約20分おき)



みなさまのご協力をお待ちしています!

基金の募金箱は福岡市植物園、福岡市情報プラザ(福岡市役所1F)などに設置してあります

緑あふれる都市環境をつくるための都市緑化基金とは?

福岡市都市緑化基金のしくみ 寄付金の税額控除が適用されます。

福岡市都市緑化基金は、(公財)福岡市緑のまちづくり協会が運営母体となり、市民のみならず民間企業からいただいた寄付金を積み立て、その運用利息等を利用して、都市の緑化を進めるための基金です。

市民・企業団体	福岡市都市緑化基金	都市緑化推進事業
寄付・募金	運用利息等*	

※福岡市都市緑化基金の運用から生ずる収益金および目標額を超える寄付金等

皆さまのご支援は福岡市の緑化推進に役立てられています

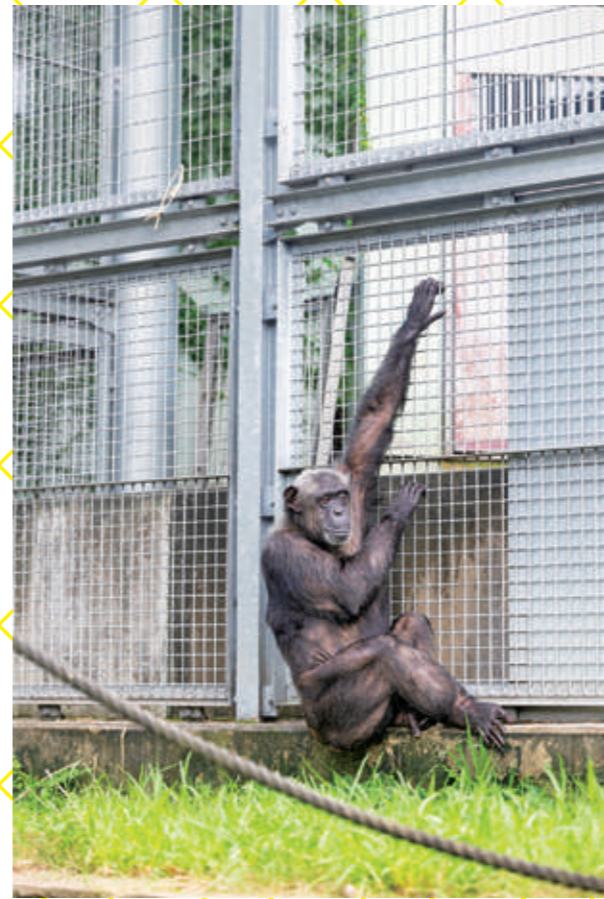
- 緑化助成事業(民有地緑化の助成)
- 緑の活動支援事業(緑化活動団体の支援)
- 都市緑化の普及啓発

詳しくは、緑のまちづくり協会ホームページをご覧ください→

寄付金の税控除について
「福岡市都市緑化基金」に対する寄付には、所得税、福岡市の個人住民税で、寄付をした翌年の寄付金税額控除の適用が受けられます。(手続きなど、詳しくは、お気軽にご相談ください)

募金についてのお申し込み・ご相談は
(公財)福岡市緑のまちづくり協会 みどり課 企画推進係
TEL092-260-8816

3月にキンコ(メス)が、5月にアツシ(オス)とカコ(メス)が仲間入り。人懐っこい瞳と人間みたいな仕草がキュート!



優雅なポーズで魅了するキンコは周南市徳山動物園から



長野市茶臼山動物園からきたアツシ(上)とカコ(下)

新しく3頭を迎え、福岡市動物園で飼育するチンパンジーは5頭(メス4頭/オス1頭)に。取材した7月は、先住のサクラ&パンジーも含めて仲良くなるようトレーニング中でした。当園ではオス1頭にメスが複数頭の群れを目指しています。チンパンジーには厳しい序列があり、5頭を群れとして形成していくためには、エサやりの順番にも細やかな配慮が必要なのだろう。「最近、これまで別室だったキンコとカコの対面をはじめたところで、あいさつだけは交わすようになった」と飼育担当の濱田さん。チンパンジーのあいさつは、独特の鳴き声をあげながら、握手するように手を差し出すスタイル。ただ、パンジーとアツシはライバル意識があるのか、あいさつはなく、大声や足を踏みならすなどの誇示行動で様子を伺っているそう。「徐々に仲間意識が芽生えてくれたら、ゆくゆくは繁殖活動に取り組みたい」とのこと。いつか赤ちゃんを交えて、群れで過ごす様子を見られる日が楽しみです。

YouTubeでキンコ、アツシとカコそれぞれのお外デビューの様子を紹介してるよ。下のQRコードで見てね!

キンコ アツシとカコ



1. 人間に興味津々で好奇心旺盛のキンコ。「仕草が一番人間ぽいかも」と濱田さん 2. 繊細な一面もあるアツシ。目線の先にはパンジーの寝室が。つれないパンジーに想いを巡らせているのか...、今後の恋の行方が楽しみ 3. 気配り屋さんのカコ。7月の猛暑の中、ダイダイをくわえて水分補給!

教えてくれたのは、飼育担当の濱田美咲さん

みんなで仲良く群れて過ごせるようがんばってますよ!



チンパンジーさん、こんにちは。

10月から3月までの見頃をチェック!

植物園散策Calendar

カレンダー

\ SNSでも最新情報を発信中! /



和名	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コスモス	■	■				
フジバカマ<アサギマダラの蜜源>	■	■				
キンモクセイ	■	■				
カツラ<落葉から良い香り>	■	■				
コバノセンナ		■	■			
ツワブキ		■	■			
バラ<秋>		■	■			
ニトベギク			■			
カエデ各種<紅葉>			■			
ナンテン<実>		■	■			
キチジョウソウ		■	■			
ツバキ各種		■	■			
ソシンロウバイ			■	■		
ニホンズイセン			■	■		
カンザキハナナ			■	■		
ウメ各種			■	■		
シナマンサク				■	■	
クリスマスローズ				■	■	
ポーモンティア・グランディフローラ				■	■	
ミツマタ				■	■	
ハラン				■	■	
フクジュソウ				■	■	
カンヒザクラ<桜>				■	■	
ハクモクレン					■	■
サンシュユ					■	■
ヨウコウ<桜>					■	■
ギンヨウアカシア					■	■
ソメイヨシノ<桜>					■	■
ブーゲンビレア					■	■

※気候により時期のずれがあります。

フジバカマ

コバノセンナ

キチジョウソウ

ニホンズイセン

ヨウコウ<桜>

カツラ

紅葉

ウメ

ポーモンティア

ギンヨウアカシア

ねづくプロジェクト @ 福岡市植物園ニュース

宿根草ガーデンの「デザイン」と「制作」を学びます。

花とみどりの活動を通じて人の輪がまちづくりにまで「ねづく」ことを目指す人材育成「ねづくプロジェクト」。
2年目となる今年は、プロのランドスケープ、ガーデンデザイン、植栽計画を学び、動植物園内に宿根草ガーデンを制作します。



(上) 日常の管理を通して宿根草を学びます



(左) 候補地の特性や課題についてグループディスカッション
(上) コンセプトを考え、イメージスケッチを作成



ねづくプロジェクト @ 福岡市植物園

ワークショップも大人気!
アロマキャンドル作りやECOプラ植木鉢寄せ植え体験など、子どもたちも楽しく参加!



2023.7/15, 22, 29 植物園Saturday★Nightパーティー

世界水泳選手権福岡大会を記念して、閉園後の17時から、夜の植物園を無料開放し、さまざまなイベントを開催しました。植物園だけの夜間開園は初めて! 大会を記念したブルーサルビアの花壇が来園者をお出迎えました。

芝生広場が楽しい野外ステージに!

上智福岡中学高等学校吹奏楽部の皆さんによる「夜のアンサンブル」(右)、Tanon 倶楽部によるクロマチックハーモニカの演奏(左)が行われた「夕暮れステージ」など、芝生広場がくつろぎの空間となりました。



2023.4/19 「飼育の日」

「飼育(419)の日」にちなんで、アラビアオリックスやレッサーパンダ、フンボルトペンギンなどの動物ガイドを実施。レッサーパンダのガイドでは体重測定の様子を披露しました。

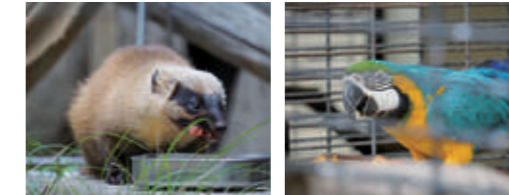


動物情報館 ZooLabでは、「キーパーズトーク(飼育員ってどんなお仕事?)」を開催。「ハズバンドリートレーニング」をテーマに飼育担当職員がクロストークしました。



2023.4/29~5/7 GW特別企画「動物たちのもぐもぐタイム」

動物へのエサやりタイムを公開し、さまざまな動物の食事の様子を観察。色々な動き、表情をする動物たちにみなさん興味津々♪



植物園トピックス

ポタニカルライフスクエア、大活躍！

1 オープンから半年。

オープン以来、多くの方に活用されているポタニカルライフスクエア(以下Bスク)。子育てコミュニティ「Mom's Style」は、毎月「ポタニカルママズガーデン」を開催。県内の様々な子育て団体とともに、子育て世代向けの企画運営をしています。第3回目の7月には、親子エクササイズ交流会と題して、カラフルなバランスボールを使った講座が開かれました。また、小学4〜6年生を対象にした「チルラボFUKUOKA」(福岡青年会議所主催)では、「郷土愛」をテーマに、博多人形をはじめ、様々な福岡の魅力を学びました。閉園後の利用も大盛況。7月に、福岡市一人一花推進課による、「一人一花」ツェルシーフラワーショーへの道、市民報告会を開催。「二人一花」フラワーガーデンチャンピオンシップ2022で選ばれた市民3名が、一人一花アンバサダー石原和幸氏のチームの一員として、世界最高峰のガーデンショー「チエルシーフラワーショー2023」にチャレンジし、見事ゴールドメダルを獲得！石原氏をゲストに迎えた当日は、100名以上が来場し、展望台カフェのデリバリーサービスも行われ、参加者はビールとおつまみ片手に熱いトークに聞き入りました。Bスクでは、開催されているイベントへの参加はもちろん、「Bスクで〇〇を開催したい」という方も大歓迎。利用申込方法など、詳細はHPをチェック！



スクスク屋上庭園



オープンから約半年。Bスクの屋上庭園では、わずか6cmほどの厚さの土に、イロハモミジ、常緑ヤマボウシ、サルスベリ、ブルーベリー等、18種類・420本の植物がスクスク成長しています。

ポタニカルライフスクエア



2

巣箱を設置! ミツバチと共存するまちに

6月、展望台カフェ裏手に「NPO博多ミツバチプロジェクト」によりミツバチの巣箱が設置されました。理事長で養蜂家の吉田倫子さん(写真右)は、博多駅近くの自宅の庭に、知人の勧めで巣箱を設置してみたところ、2年後にスクランボが通常の1.5倍実ったこととびっくり。野鳥や昆虫も増え、ミツバチの媒介によって生まれる生物多様性の世界に魅了され、都心に巣箱を設置する啓発活動を始めました。「都会でミツバチ?と思われるかもしれませんが、意外にも都市部の方が、多様な樹木が狭い範囲に生息していることや外敵が少ないことから、おいしい蜜がたくさん採れるんですよ。企業サポーターの「博多一幸舎」の入沢里美さん(写真左)は、「ミツバチが、由緒ある住吉神社の手水を飲んでいる姿を見た時、なぜか博多山笠の男衆と重なって。自然界の巡りと博多文化の巡りに共通点を感じ、応援したくなりました」と巣箱のお世話に協力。秋には4〜6kgの蜜が採取できる予定。それまでは観察会や「なぜ街にミツバチが必要か」などのお話を開催予定です。どんな味わいの蜜が採れるのかとても楽しみです。



NPO 博多ミツバチプロジェクト



3

映える! 花のフォトスポットがバラ園に登場

バラ園の二画に花に彩られたガゼボが登場。「映える」フォトスポットとして、植物園の newName 所になっています。設置に協力してくださったのは、「福岡花いっぱいプロジェクト」代表の木村愛さん。木村さんは「一人一花」フラワーガーデンチャンピオンシップ2022で、石原和幸氏のチームの一員としてイギリスの「チエルシーフラワーショー2023」に同行する市民3名に選出され、今年5月に同行。そこで見たのは、花と緑に彩られた、絵のように美しい街並みと、フラワーショー会場だけでなく、街全体の盛り上がりでした。「福岡ももっとたくさんの人や企業を巻き込んで一人一花運動を盛り上げたい」と、熱い思いを抱いて帰国。SNS全盛の今だからこそ考えたのが、ただ花壇をつくるだけではなく、写真を撮りたくなる花のフォトスポットづくり。「市民・企業参加型で県内に100個設置するのが目標です」と、今後は植物園を拠点に、TikTokの配信開設も予定しているので乞うご期待。



木村愛 福岡花いっぱいプロジェクト



来園者の目によくとまるのが「オキナグサ」だそう。「孤独や寂しさを癒す花ともいわれているので、みなさん安らぎを感じているのかも」と松田さん



管理スタッフになって約1年の松田さん。「植物園のそばに住みたくて、引っ越ししました。ここは都心にありながら、ありのままの自然が残る場所。植物に触れていると、人間はちっぽけだなと思いが知らされます」

「この花を見ると母を思い出すとかが、いろんな方が話しかけてくれます。花が心の風景を引き出してくれるのでしょね。私も、見る人の心に寄り添える優しい場所にしたいと思っています」と語ってくださいました。

4人それぞれの植物を愛する気持ちが、植物を通して生まれる人と人とのつながりや多種多様な物語を生み出し、植物園の魅力につながっているのだなと感じました。お世話しているスタッフを見かけたらぜひ気軽に声をかけてみてください。

サボテンや食虫植物なども合わせると100種類をゆうに超える熱帯温室。毎日ひたすら観察して、自分の感覚を信じて管理してきたという山川さん。「未知の植物ばかりですが、手をかけた分応えてくれるのが嬉しいです」



熱帯植物独特といえば、着床シダ植物のコウモリラン。「最近ではインテリアアイテムとしても人気ですが、自然の中ではこんな風に樹木に着生している姿が観察できます」



初夏に薄紫の花を咲かせるジャカランダの葉っぱは、山地さんの理想の“きみどり色”なのだそう。「青空とのコントラストは最高にきれいです!」



バラ園で花殻摘みの作業をする山地さん。「バラ好きの常連さんがよく来て下さいます。本当は人見知りなのですが、好きなことだと不思議といろいろ話せるんですよ」

「植物園で穴場的存在ともいわれる「野草園」。ここに、週2〜3回のペースでお世話にきているのは、松田純子さん。松田さんは、アロマセラピーの講師でもあります。もともとアロマの勉強のために、植物園の観察会に約10年通っているうち、管理スタッフのご縁にたどり着いたそう。「子どもの頃から植物が大好き。どう育てて生きているのかに興味があつて。直接土を触りながら草花に接していると、人間へのメッセージが伝わってくる気がします」。野草園には、野山が好きな人がよく訪れます。「この花を見ると母を思い出すとかが、いろんな方が話しかけてくれます。花が心の風景を引き出してくれるのでしょね。私も、見る人の心に寄り添える優しい場所にしたいと思っています」と語ってくださいました。

最後に訪ねしたのは、異空間が広がる熱帯温室。このエリアを10年以上一人で担当している山川浩二郎さんです。「長年お世話している、愛着が湧きすぎて、休日も温室が気になって」と笑います。温室は屋外の花壇とは違って環境づくりが大切。植物が生き生きとした姿を見せてくれる時、それをお客さんが見て楽しんでくださるのが喜びだそう。チャレンジ心も旺盛。「サボテンをタネからまいてみたら、9年かかってやっと拳ほどの大きさになりましたが、これがかわいくて」と目を細めます。「これからも、ずっと温室の植物の生長を見守っていききたい」と語る姿が印象的でした。



藤井さんの推しは「サクラタデ」だそう。「在来種の宿根草で、一見、地味ですが、よくみるとサクラに似たとってもかわいい小さな花がたくさん咲くんですよ」



宿根草花壇の手入れをする藤井さん。「宿根草は管理が大変というイメージがあるかもしれませんが、知識を学べば実は楽なんですよ」

植物園は、植物を愛し育てるさまざまな人の「想い」に支えられています。4人の管理スタッフの方々に会いに行きました。

次にお会いしたのは、「人と街と自然が共存するにはどうすればいいのを探りながら、活動しています」と話す、造園デザイナーの藤井宏海さん。植物園が運営する「ねづくプロジェクト」のスタッフとして、毎週火曜参加者と一緒に宿根草花壇の手入れをしながら、九州の土地に合った宿根草を見つけるためにいろいろな種類を育てているそう。「環境都市として有名なポートランドを訪れた時、花と緑に包まれた平和なまちの風景がずっと心に残って。日本では、じやまになるという理由から樹木を伐採することもあり、環境より人の都合が優先されているようにも思います。宿根草をもっと広げていくことで、まちに癒しの場を増やして

植物が大好きな、ひとたち。